

神奈川県立柏陽高等学校における学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおりに開催した。

審議会等名称	神奈川県立柏陽高等学校 令和7年度 第2回学校運営協議会（地域連携部会）
開催日時	令和7年11月26日（水） 14:00～15:30
開催場所	神奈川県立柏陽高等学校 大教室
〔役職名〕出席者	〔委員〕湊 浩一（横浜市立本郷中学校校長） 佐藤 俊作（横浜市消防局栄消防署長） 細田 利明（栄区連合町内会自治会長） 〔事務局〕小野 亜希子（副校長）、中島 良光（総括教諭）、三角 峻（総括教諭）、 万年 美喜子（総括教諭）、林 良輔（教諭）

～開会～

1 冒頭あいさつ（全体会）

副校长：全体の流れの確認（次第）2つの部会を同時に開催する。ご理解いただきたい。

校長：本校は安定を求めず、変化していく必要がある。柏陽高校はまだ歴史が浅いため、努力する必要がある。

外から見た柏陽高校について、忌憚なき厳しい意見をぜひいただきたい。

副校长：1515より全体共有する。

2 学校設置部会「地域連携部会」について

・資料の内容説明を受けて

湊：「ほんごうの森コンサート」に吹奏楽部が参加していただいて感謝している。柏陽高校の吹奏楽部は上手。

本郷中学校は全国大会に出たが、それでも上手と感じる。また、授業を見させていただき、刺激を受けている。中学校と違い、スマホの扱いについても学んだ。柏陽高校は校則がなくともできている。現在グラウンドの改修工事をしているため、よければ部活動と一緒にさせてもらえないか。

佐藤：通学地域が広いが、できれば地域防災訓練に参加してほしい。11月～2月に行う予定である。出初式には、今年も写真部の参加をお願いしたい。

細田：栄区の中で柏陽高校のイメージが上がっている。しかし、レベルが高くて入学できない。自治会も適宜協力していく。目の前の横断歩道を斜め横断しないのは素晴らしい。歩道の対面通行も避けてくれている。

湊：地域の交通について、中学生高校生に限らず、電動自転車の速さや歩きスマホ、通学中の会話等、病院へ向かう方々への配慮も必要である。

細田：公開授業に参加したが、ざっくばらんな授業ができている生徒たちがすごい。スマホを使いながら話を聞く等。中学校と比べるとやはり柏陽高校のすごさがわかる。

万年：毎年、栄区との協働で家庭科の授業を行っているが、地域の協力に大変感謝している。

副校长：地域連携部会として、さまざまな協力ができればよい。何か案や意見はあるか。

湊：栄区は高齢者が多い。中学校と共同で避難訓練等を長年やりたいと思っている。災害時、地域の子どもや高齢者を助けるためには中学生や高校生の力が必要である。

佐藤：栄区に住んでいる柏陽生はどれくらいいるのか。（40人程）

災害時にこの地域で積極的に手伝うことができる子どもを育てていただきたい。他地域から通学している子どもが多いのであれば、災害時に帰ることができる生徒は少ないはずである。

細田・佐藤：初動対応だけでも区役所とタイアップしてほしい。

三角：本校では交通安全指導を年3回実施しているが、中学校ではやっているか。

湊：川沿いの歩道の指導を適宜やっている現状である。交通安全指導を中学校とタイアップすることは面白いが、時間がずれており、教員も足りないため難しい。

副校長：協働できることが挙がったが、地域も含めて共に考えていくことはできないか。

湊：地域防災について、協働はできないが時期を合わせることはできる。また、防災拠点としての学校を見せることはできる。部活動のタイアップは中学生にとって貴重な経験となる。ぜひやっていただきたい。

三角：バスケットボール部はやっていて、こちらもいい刺激になった。

細田：中学生は高校生に憧れがある。

湊：新しいことを始めることは負担が大きい。ちょっとしたことを積み上げていきたい。

中島：地理の授業で DIG 訓練を行っている。駅以外の方向に目を向けさせる授業をしているが、よろしければ写真を撮らせてほしい。

3 全体共有

細田：柏陽高校を地域にどうやって広めるか、うまく利用するかが課題である。柏陽高校と本郷中学校は連携できているが、他の中学校とのつながりがほとんどない。住民と協力してさまざまなことができればと思う。防災訓練に関して、協力できるところをつくっていきたい。

佐藤：地域防災訓練に参加していただきたい旨を伝えた。災害が起きた時に地域を救う協力者となってほしい。

湊：近隣にお住いの高齢者や病院等と協力して、本郷中学校と柏陽高校の生徒が人を助けてほしい。柏陽高校の吹奏楽部に刺激を受けて、今年全国大会に行くことができた。地域のコンサート等に柏陽高校が参加すると盛り上がる。連携していきたい。常にアップデートを行っていることに感銘を受けた。

中西：進路指導に関して、保護者の視点から指摘させていただいた。指導の秘訣や教員が新しい授業を行っている積極的な取組を聞けて感謝している。学校に通うことの重要性を聞けてよかったです。

田中：10年間見てきて、組織力、チーム力、指導力、技術力が上がっていると感じる。職員にも活気が感じられる。さまざまな指導において、急にレベルアップすることは難しいが、確実に上がっていることをもっと周知してほしい。さらに言えば、SSH や SGH 等を引き受けたい。

川口：年々先生方や生徒たちの言葉の力が感じられる。以前の会議では「それは難しい」という発言もあった。さまざまなシステムも導入されて大変だが、それを追い越して実績をつくり、先駆者になってほしい。

4 事務局より

副校長：さまざまな貴重な意見をいただいた。今後の学校運営に活かしていきたい。次回は令和8年3月の予定である。

～閉会～

主な会議資料	・次第、座席表 ・学校運営協議会 学校設置部会（地域連携部会）資料 ・授業評価アンケート結果
問合せ先	県立柏陽高等学校 副校長 小野 亜希子 電話番号 045(892)2106